

## 正誤表（現況分析（教育））

18：宇都宮大学

No.	現況分析単位 (学部・研究科等)	頁数	誤	正	修正事由
01	01_地域デザイン科学部	p. 7	年度毎の GPA 最上位者に賞金が送られる	年度毎の GPA 最上位者に <u>奨励金</u> が送られる	誤字があったため
02	01_地域デザイン科学部	p. 15	地域のニューリーダーを養成する「志士プログラム」などを、	地域のニューリーダーを養成する「 <u>とちぎ</u> 志士プログラム」などを、	脱字があったため
03	01_地域デザイン科学部	p. 16	地域のニューリーダーを養成する志士プログラム講師	地域のニューリーダーを養成する「 <u>とちぎ</u> 志士プログラム」講師	脱字があったため
04	02_国際学部	p. 3	学際的かつ専門的な思考と判断力、複言語運用能力	学際的かつ専門的な思考と判断力、 <u>複数</u> 言語運用能力	脱字があったため
05	02_国際学部	p. 7	「外国語臨地演習」は、外国語の習得のみを目的とするものではなく	「外国語臨地演習」は、外国語の <u>修得</u> のみを目的とするものではなく	誤字があったため
06	02_国際学部	p. 19	就職セミナーをウェブ化するなど、	就職セミナーを <u>ウェブ</u> 化するなど、	誤字があったため
07	02_国際学部	p. 20	適切であったと判断できる（別添資料 1802-ii B-~2）（再掲）。	適切であったと判断できる（別添資料 1802-ii B- <u>1</u> ~2）（再掲）。	脱字があったため
08	03_国際学研究科	p. 2	後期に「国際学基盤研究」で専門的知識や理論を習得し、	後期に「国際学基盤研究」で専門的知識や理論を <u>修得</u> し、	誤字があったため
09	03_国際学研究科	p. 6	研究テーマに関する高度な理論及び専門知識を習得し、	研究テーマに関する高度な理論及び専門知識を <u>修得</u> し、	誤字があったため

## 正誤表（現況分析（教育））

10	03_国際学研究科	p. 11	留学生の確保を継続しているといえる（別添資料 1803-i8-3~4）（再掲）、（別添資料 1803-i8-4~5）。	留学生の確保を継続しているといえる（別添資料 1803-i8- <u>4</u> ）（再掲）、（別添資料 1803-i8- <u>5</u> ）。	資料番号に誤りがあったため
11	03_国際学研究科	p. 17	標準修業年限×1.5 年内修了率は 100%、100%、33.3%、33.3%である。	標準修業年限×1.5 年内修了率は 100%、100%、 <u>66.7%</u> 、33.3%である。	別添資料の再提出に伴い数値に齟齬が生じたため
12	03_国際学研究科	p. 17	終了した学生は概ね平均 2 件程度	<u>修了</u> した学生は概ね平均 2 件程度	誤字があったため
13	03_国際学研究科	p. 18	11 名うち留学生は 7 名であり、	11 名 <u>の</u> うち留学生は 7 名であり、	脱字があったため
14	03_国際学研究科	p. 20	高い評価が与えられたことは研本 究科の教育が	高い評価が与えられたことは <u>本研</u> <u>究科</u> の教育が	誤字があったため
15	04_教育学部	p. 3	教師としての実践力の習得を中心 とした教職実践総合科目群	教師としての実践力の <u>修得</u> を中心 とした教職実践総合科目群	誤字があったため
16	04_教育学部	p. 6	保護者ともに肯定的な反応が 90% を越えており、	保護者ともに肯定的な反応が 90% を <u>超</u> えており、	誤字があったため
17	04_教育学部	p. 15	附属小の実習生の教職志向の変化 をみると、	附属小 <u>学校</u> の実習生の教職志向の 変化をみると、	脱字があったため
18	04_教育学部	p. 16	教師に必要な資質能力の習得を自 覚し、	教師に必要な資質能力の <u>修得</u> を自 覚し、	誤字があったため
19	04_教育学部	p. 16	学生の割合が 4 年間で上昇して 90%を越えた 4 つの項目は	学生の割合が 4 年間で上昇して 90%を <u>超</u> えた 4 つの項目は	誤字があったため
20	04_教育学部	p. 16	肯定的な評価が 4 年間変わらず 90%を越えていた。	肯定的な評価が 4 年間変わらず 90%を <u>超</u> えていた。	誤字があったため

## 正誤表（現況分析（教育））

21	04_教育学部	p. 18	管理職の視点からも評価された (別添資料 1804-iiB-2) (再掲) (別添資料 1804-iiC-1) (再掲)。	管理職の視点からも評価された (別添資料 1804-iiB- <u>1</u> ) (再掲) (別 添資料 1804-iiC-1) (再掲)。	資料番号に誤りがあったため
22	05_教育学研究科	p. 2	研究者教員全員が学校現場と協働 した実績を、実務家教員の多くが 修士号を持つ。	研究者教員全員が学校現場と協働 した実績を <u>有し</u> 、実務家教員の多 くが修士号を持つ。	脱字があったため
23	05_教育学研究科	p. 5	この形態が現職院生にも学卒院生 にも同僚性を、理論的知見を踏ま えてリードする実践力を育成して いる	この形態が現職院生にも学卒院生 <u>にも</u> 、理論的知見を踏まえて <u>同僚 性</u> をリードする実践力を育成して いる	文言の位置に誤りがあったため
24	05_教育学研究科	p. 6	TT による授業科目の数と割合は、 共通科目で8科目・80%	TT による授業科目の数と割合は、 <u>、</u> 共通科目で8科目・80%	誤字があったため
25	05_教育学研究科	p. 7	さらに「ふりかえり」を文書でまと めさせることにより、大学院生自 身に自らの成長や変容を実感させ ている。この「ふりかえりのふりか えり」からは、	さらに「 <u>振り返り</u> 」を文書でまとめ させることにより、大学院生自身 に自らの成長や変容を実感させて いる。この「 <u>振り返りの振り返り</u> 」 からは、	誤字があったため
26	05_教育学研究科	p. 8	また宇都宮大学では、大学院から 院生を推薦し、	また宇都宮大学では、 <u>各研究科</u> か ら院生を推薦し、	誤字があったため
27	05_教育学研究科	p. 12	実践研究福井ラウンドテーブルに 教員と院生（平成 31 年 2 月は、	実践研究福井ラウンドテーブルに 教員と院生 ( <u>2019</u> 年 2 月は、	元号での表記があったため
28	05_教育学研究科	p. 13	令和元年に女性教員 1 名を採用し た	<u>2019</u> 年に女性教員 1 名を採用した	元号での表記があったため

## 正誤表（現況分析（教育））

29	05_教育学研究科	p. 13	4.1 に記載したように、2019 年度は 146 回の訪問回数と	<u>[4.1]</u> に記載したように、2019 年度は 146 回の訪問回数と	脱字があったため
30	05_教育学研究科	p. 15	現職院生・学卒院生ともに 5 点満点中 4 点を越えた。	現職院生・学卒院生ともに 5 点満点中 4 点を <u>超</u> えた。	誤字があったため
31	05_教育学研究科	p. 16	同僚の教師との共同での授業づくり	同僚の教師との <u>協働</u> での授業づくり	誤字があったため
32	06_工学部	p. 2	全ての専門科目へのアクティブラーニング要素の導入を進め	全ての専門科目への <u>アクティブ・ラーニング</u> 要素の導入を進め	誤字があったため
33	06_工学部	p. 5	アクティブラーニング的要素の導入に努めている	<u>アクティブ・ラーニング</u> 的要素の導入に努めている	誤字があったため
34	06_工学部	p. 7	どの専門分野を指向して履修計画を立てればよいのか、	どの専門分野を <u>志向</u> して履修計画を立てればよいのか、	誤字があったため
35	06_工学部	p. 9	上述の個別成績票やポートフォリオで可視化する一方で、	上述の個別 <u>成績表</u> やポートフォリオで可視化する一方で、	誤字があったため
36	06_工学部	p. 9	担任から各学生に個別成績票を受け渡す際に面談を行い、	担任から各学生に個別 <u>成績表</u> を受け渡す際に面談を行い、	誤字があったため
37	06_工学部	p. 9	現在整備中のポートフォリオの指導内容記録欄を設け、	現在整備中のポートフォリオ <u>に</u> 指導内容記録欄を設け、	誤字があったため
38	06_工学部	p. 16	留年率（各年度修了時の卒業判定該当者数に対する	留年率（各年度 <u>終了</u> 時の卒業判定該当者数に対する	誤字があったため
39	06_工学部	p. 17	就職活動学生と工学卒業生との橋渡しも行っている	就職活動学生と工学 <u>部</u> 卒業生との橋渡しも行っている	脱字があったため
40	07_工学研究科	p. 5	「学際先端システム学コース」の 3 コース制としている。	「学際先端システム学コース」の <u>コース制</u> としている。	衍字があったため

## 正誤表（現況分析（教育））

41	07_工学研究科	P. 7	ポストドクターキャリア開発事業 (平成 24 年度から平成 28 年度)	ポストドクターキャリア開発事業 ( <u>2012</u> 年度から <u>2016</u> 年度)	元号での表記があったため
42	07_工学研究科	P. 7	主に学外発表の実績を持って学習 成果の可視化を行っている。	主に学外発表の実績を持って <u>学修</u> 成果の可視化を行っている。	誤字があったため
43	07_工学研究科	P. 8	学生の研究に対するモチベーショ ンを掲揚すべく、	学生の研究に対するモチベーショ ンを <u>高揚</u> すべく、	誤字があったため
44	07_工学研究科	P. 10	9 月上旬及び 3 月上旬に学位審査 委員会に置いて学位授与	9 月上旬及び 3 月上旬に <u>学位授与</u> <u>審査委員会において</u> 学位授与	誤字があったため
45	07_工学研究科	p. 12	2017 年度から 2018 年度にかけて、 大阪大学大学院子学研究科に	2017 年度から 2018 年度にかけて、 大阪大学大学院 <u>工学研究科</u> に	誤字があったため
46	07_工学研究科	p. 12	2018 年度には、高エネルギー加速 研究所、	2018 年度には、 <u>高エネルギー加速</u> <u>器研究機構</u> 、	誤字があったため
47	07_工学研究科	p. 14	地方国立大学の重要な役割の一つ であると考え、	地方国立大学の重要 <u>な</u> 役割の一つ であると考え、	誤字があったため
48	07_工学研究科	p. 18	それら資質獲得のきっかけになっ た経験を問う質問 (Q9)	それら資質獲得のきっかけになっ た経験を問う <u>設問</u> (Q9)	誤字があったため
49	08_農学部	p. 5	「プロジェクト演習 (PBL excercise)」がある。	「プロジェクト演習 (PBL <u>exercise</u> )」がある。	誤字があったため
50	08_農学部	p. 14	速やかに対応することとした (別 添資料 1808-iC-9~12)。	速やかに対応することとした (別 添資料 1808-iC-9~ <u>11</u> )。	資料番号に誤りがあったため
51	08_農学部	P. 16	2019 年度の 28 名へ顕著に減少し た (別添資料 1808-i5-8) (再掲)。	2019 年度の 28 名へ顕著に減少し た (別添資料 1808-i5- <u>9</u> ) (再掲)。	資料番号に誤りがあったため
52	08_農学部	P. 17	就職先を選択していることが現わ されていると考えられる	就職先を選択していること <u>に現わ</u> <u>れている</u> と考えられる	誤字があったため